

ACT!

支援者さまと国境なき医師団(MSF)をつなぐニュースレター

2022年 8月号



国境なき医師団日本事務局のスタッフたち。それぞれのキャリアを生かし、活動地へ力を届け続ける。

活動資金、人材、皆さまの思い。 その全てを、命を救う現場の最前線へ

リクエスト特集

日本事務局って、どんなところ？ あなたの疑問に答えます！

「事務局の具体的な仕事は？」「裏方として働くスタッフの話を聞いてみたい」

今回は皆さまから数多く寄せられた、国境なき医師団日本事務局へのリクエストに応える特別企画。

人道危機の現状を社会に発信する広報部をはじめ、

海外派遣スタッフの採用や渡航をサポートするフィールド人事部、

活動資金の調達に奔走する資金調達部など、

世界各地で、いまこの瞬間も続く医療援助活動を

日本からもチーム一丸となって支える、スタッフの生の声をお届けします。



記者会見のセッティングや進行も、メディア担当の仕事。左の壁際で質疑応答を見守る館。

私たちの活動は、40万人の支援者さまと共に。国境なき医師団日本事務局をご紹介します。

皆さまもご存じの通り、世界にはさまざまな理由で命の危機にさらされている人びとが大勢います。国境なき医師団(MSF)は、そうした人びとに医療を届け、その窮状を一人でも多くの人に発信するため1971年にフランスで設立されました。日本事務局が発足したのは1992年のことです。

私たち日本事務局の使命は「日本社会で人道援助に対する支持を拡げ、日本の皆さまからいただいた支援を通じて、いま医療を必要とする世界中の現場により大きなサポートを届ける」ことです。私たちは各オペレーション事務局に人材や資金を送る「パートナー事務局」として、海外派遣スタッフの募集や派遣、活動資金の調達、証言活動に力を注いでいます。いまや日本の支援者さまは40万人に上り、お一人お一人のお力のおかげで日本からの寄付額はMSF全体で5番目(2020年度)という大きな貢献ができており、それにより命を救われた人びとは数知れません。日本の全スタッフに代わって、心より御礼を申し上げます。

私自身、海外派遣スタッフとして延べ10年以上に及ぶ現場経験があり、薬1錠、ワクチン1本が、皆さまのご支援なくしては存在しないこと、また特定の権力に頼らないMSFの資金の独立性こそが、活動地での信頼につながっていることを痛感しています。

いま私たち日本事務局は支援者の皆さまと共に、まだまだ人道援助が身近でない日本に、その輪をより大きく拡げていきたいと考えています。そして資金面だけではなく、人材面、アドボカシー面などの新たな挑戦を始めています。今回は裏方である、私たちの仕事の一部をご紹介します。MSFへの理解を深めていただく一助になれば幸いです。



国境なき医師団日本事務局長
むらた しんじろう
村田 慎二郎

人道危機の状況を伝える・変える 広報部

証言活動にも息づく「独立・中立・公平」の原則。 人道援助を、もっと身近なものに

不条理に対して 自分ができること

大学を出てからPR会社で6年働いて、IT系の会社の広報を約3年担当。その後、外資系通信社に8年在籍した後、MSF日本に入職しました。幼い頃から、両親が社会問題について議論するような環境で育ったこともあり、世の中の不条理に対して、もし自分にできることがあるなら取り組んでみたいという思いは、常にどこかにあったかもしれません。

日本事務局では現在、広報部に所属しています。MSFは世界約90の国と地域で活動しており、各地の窮状は、オペレーション事務局を通して、各事務局の広報部に毎日配信されます。その情報を翻訳して日本の報道機関にリリースすることや、記者会見や個別取材の提案、さまざまな問い合わせへの対応が、メディア担当の私の主な仕事です。

私たち広報部の使命は、医療援助だけではどうにもできない現実を、証言活動を通じて変えることです。窮地に追い込まれた人びとの実情を

日本事務局は、こんな部署で構成されています。★印は今回ご紹介するセクションです。

人道危機の状況を伝える・変える	活動地に人を送る	活動資金を集める	活動地の技術をサポート
広報部★ 人道危機の現状を社会に発信する証言活動を担います。	アドボカシー・医療渉外チーム 医療・人道援助関係者への渉外活動を担います。	資金調達部★ 医療・人道援助活動に必要な資金を募ります。	ジャパン・イノベーション・ユニット 現場の課題を発見し解決するためのサポートを提供します。
上の5部署の活動をサポートする			アジア地域の援助活動を統括
事務局人事・総務部 事務局スタッフの募集・採用、処遇決定や労務管理、総務などを担当します。	ITチーム★ ITシステムを導入・整備し、日本事務局の効果的・効率的な活動を支えます。	財務・法務部 資金の管理・財務計画を作成・実行し、内部統制・法令遵守をサポートします。	東京セル 主にアジア地域の医療・人道援助活動を統括、管理します。



作家・クリエイターのいとうせいこうさん(左)によるMSFの現場取材も、館が担当(右)。写真はMSFのイベントで、活動地で聞き取ったことを話していただいたときの様子。

一人でも多くの日本の皆さんに知っていただくことで、状況を少しでも改善し、また人道援助そのものへの理解を深めていくのが目的です。

私はMSFの「独立・中立・公平」の原則に共感していますが、これは医療援助の現場に限ったことではありません。広報部の証言活動においても同様で、例えば使う言葉一つとっても、テロリストではなく、武装勢力と表現するように、この原則はMSFの活動全てに、深く根付いていると感じます。

また、紛争地のような場所であっても、最前線まで行くことが多い

MSFが活動する国や地域の多くは日本から地理的に遠いこともあり、日本の皆さんに身近に感じていただくのは簡単なことではありません。しかし、新聞の投書欄などに「テレビで国境なき医師団を見て、応援したいと思った」などと書かれているのを見かけると、救われるのと同時に、とても励みになります。皆さまからのご寄付には、私たち事務局への期待も託されている……。その自覚を常に持って、今後も業務に邁進したいと思っています。

支援者さまの期待を糧に

●MSFへの道のり

- 1994年 PR会社に勤務
- 2000年 IT会社で広報担当
- 2003年 外資系通信社に勤務
- 2012年 MSF日本に入職

●支援者さまへ

皆さまがそれぞれの大切なお金を、遠く離れた場所で苦しむ人びとのために寄せてくださることに、心からの尊敬と感謝の念を抱きます。本当にありがとうございます。

© MSF

私たちのオフィスの一部をご紹介します!



現在、スタッフの数は約80人。オフィスでは日本語、英語、フランス語が飛び交います。国籍は、日本、フランス、パキスタンなど約10カ国。大半が民間企業で培ったキャリアを生かして働いており、海外派遣スタッフの経験者もいます。



もしかするとオンラインイベントなどで見たことのある方もいるかもしれませんが、この国旗がずらりと並んだ空間は、実は普段は事務局スタッフの休憩室。国旗はMSFが2015年当時活動を行っていた国から選ばれたものです。



MSFの日本事務局は、東京の新宿区早稲田にあります。エントランスでまず目に飛び込んでくるのが、正面に飾られた団旗や赤ちゃんの体重を量る道具などの数々。実際に活動地で使われているもので、来訪者にMSFの活動をより身近に感じていただくために展示しています。

最も必要な場所へ、いま求められる人を。派遣中も帰国後も全力でバックアップ

小林 カリン (フィールド人事部 マネージャー)

日本人であることは強み

いま国境なき医師団(MSF)日本からは、年間約100人の海外派遣スタッフを活動地に派遣しています。私たちフィールド人事部の使命は大きく分けて3つあり、1つ目は日本と東ロシアから医療従事者をはじめとする海外派遣スタッフを募集して採用すること。2つ目は活動地に質の高い海外派遣スタッフを送ること。3つ目は派遣前、派遣中、派遣後の全てのプロセスを通じて海外派遣スタッフをサポートし、次の活動につながる育成をすることです。

私はフランス人ですが、日本人の海外派遣スタッフは柔軟で礼儀正しく、人の気持ちを大切にすることが多いです。それは、現地スタッフの教育や活動地でさまざまな価値観を持つ人と話し合う際の強みです。またほとんどの人が「必要とされる場所があれば、どこへでも行く」という姿勢なので、緊急対応では最短で24時間以内に活動地へ送り出したこともあります。

ウクライナの場合も行きたいと申し出てくれた海外派遣スタッフは、現地勢いでした。ただ最も重要なのは現地のニーズとのマッチングです。ウクライナには病院があり、医療水準も高く、医療従事者もいる。しかし、空爆で多数の負傷者が運ばれてきた場合の対応は難しいとの判断から、最初は救急医を派遣しました。以降、刻々と変わる状況を見極めながら、ウクライナ国内へは、ロジスティシャンなど6人の海外派遣スタッフを送り出しています(2022年6月時点)。

仲間も皆さまも家族

実は私も海外派遣スタッフとして



新人の海外派遣スタッフへの研修も大事な業務。

皆さまの、思いが詰まった寄付金を、しっかり受け取り、活動につなげる

活動資金を集める 資金調達部

少しでも気持ちよく 支援いただくために

相川 ゆかり (資金調達部 支援者対応担当)

ニュースレターや街頭キャンペーンなどさまざまな方法で活動資金を集める資金調達部で、支援者対応業務を担当しています。寄付の受け付けなどの各種お手続きを滞りなく進め、電話やメールなどからのお問い合わせに対応するのが主な仕事。領収書などさまざまなレター類も支援者さ

皆さまからの信頼に応えたい

まにお届けしています。

少しでも気持ちよくご支援いただきたいという思いで、コールセンターや関連部門などと連携して対応に当たっていますが、時には支援者さまから厳しいお声をいただくことも。ただありがたいことに、こうしたお声から手続きの改善のヒントをいただくことが少なくありません。「寄付の申込書が書きにくい」といったお声をいただいたことを受けて、申込用紙の様式を修正しました。変更後、支援者さまから「分かりやすくなった」とのお声をいただきました。

また、お電話でお話しさせていただく際には、「MSFのことを信頼しているから、使い方は任せるわ」「いつも応援しています、頑張ってくださいね」というような温かい言葉をいただくことが本場に多いです。そのたびに私たちは、寄付をいただくだけでなく、支援者さまのお気持ちも託されていると感じ、とても励みになります。こうした信頼に応え続けるために、



2009年にイエメンに派遣されていた当時の1枚。負傷して治療を受ける少女と小林(左)。

活動していた時期があります。2008年にアドミニストレーターとしてコンゴ民主共和国で活動したのが最初です。当初MSFでの活動は1年の予定でした。その後はフランスに帰り、芸術関係の仕事に戻るつもりでした。でも14年たったいま私はまだMSFで働き続けています(笑)。大好きな日本で、家族のような仲間たちと……。私は支援者の皆さまにも、同様の強い絆を感じます。現地へ赴く人、事務局で支える人、寄付で支援する人、それぞれやり方は違いますが目的は同じです。日頃のご支援に感謝するとともに、今後ともどうぞよろしく願っています。

●MSFへの道のり

2002年	教育系企業に勤務
2007年	広告・人材サービス企業に勤務
2011年	東日本大震災ボランティア活動に参加
2016年	MSF日本に入職

●支援者さまへ
MSFの“パートナー”である皆さまのご支援が本当に多くの命を救う原動力なのだ、日々強く感じています。



「また次もMSFに支援を託したい」と思っていただけのような、気持ちや伝わるコミュニケーションと小さな改善を積み重ねていきたいです。

故人のご遺志を大切に お預かりする

今尾 礼子 (資金調達部 遺贈専任担当)

人生の先輩に学びながら

遺言によって遺産を相続人以外の人や団体に無償で譲る「遺贈寄付」の窓口を担当しています。母が60代で病死したことを機に死生学に関心を持ち、この仕事に就きました。

●MSFへの道のり

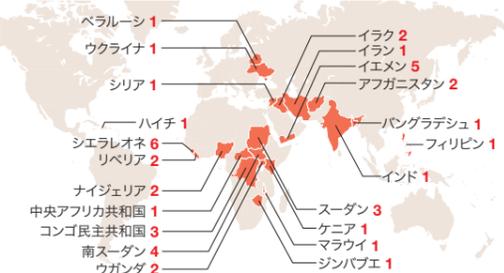
2000年	パリで芸術関係の仕事に就く
2008年	MSFに入団。初派遣でコンゴ民主共和国へ
2013年	日本事務局内の東京セルへ
2014年	フィールド人事部に配属

●支援者さまへ
現場経験があるからこそ理解できる海外派遣スタッフの思いを尊重し、今後も丁寧に支えていきたいと思っています。



MSF日本からのスタッフ派遣状況

2022年6月27日時点で、22カ国に43人の海外派遣スタッフを送っています。



- 海外派遣スタッフをこのようにサポート
 - 1 日本と東ロシアから人材を募集・採用
 - 2 登録された海外派遣スタッフの中から、活動地の状況に最も適した人材を選ぶ
 - 3 派遣が決まったスタッフと契約を結ぶ
 - 4 出発・帰国の諸手続きをサポート
 - 5 時には活動中のスタッフの相談に乗る
 - 6 帰国後にヒアリングし、トレーニングを提供しながらキャリア育成をサポート



電話でのお問い合わせに対応する今尾。「お電話でお話を伺いながら、いつも学ばせていただいています」

遺贈寄付を検討され、お問い合わせをいただく方の中には、幼い頃に戦争を体験された方も多く、ウクライナの緊急支援の際は現地の状況に胸を痛められ、「戦争は絶対にダメ」と平和への願いを強く口にされる方が多かったのが印象的でした。ご自分の人生と向き合い、遺言を書くのは本場に大変なことだと思います。遺言書で家族や周囲の方への感謝の気持ちと共に寄付をする理由をしっかりと書かれていた方、奥様の急死を機に自分の遺言書を作成され、薬を運び医療を届けるMSFに支援を託したいと、遺贈寄付を決められた方など、ご自分の人生について自ら舵を取られているのだと深い感謝を受けました。これからも人生の先輩に学びながら、皆さまのお気持ちとご寄付を大切にお預かりし、活動につなげていきたいです。



●MSFへの道のり

1999年	大手IT企業に就職
2004年	フランスの大学院に留学
2011年	教育支援NPOで資金調達を担当
2020年	MSF日本に入職

●支援者さまへ
遺贈について気になられた際は、大切な人生の振り返りやお気持ちも含め、ぜひお話を伺ってください。

遺贈寄付ご相談ダイヤル
03-5286-6430
(平日10:00~17:00) 担当:今尾・萩野
Eメール: legacy@tokyo.msf.org
お問い合わせをお待ちしています。

全ての情報の流れを安全でスムーズに。命を救う現場を最後方から支える

●清水 夏彦（ITチーム 業務システム担当）

定年前に 国境なき医師団へ

前職の製薬企業で早期退職制度を利用して50代後半で退職し、国境なき医師団(MSF)日本に入職しました。30代の頃は青年海外協力隊としてマレーシアでITの仕事をした経験もあり、定年後を見据えた時、「同じ仕事を続けるより、NPOなどで社会貢献できる仕事をしたい」という思いが強くなっていったからです。外資系企業でしたので、病気の名前などの専門用語を英語で覚えた経験もあり、医療・人道援助団体のMSFでは、こうしたスキルも生かせるのではないかと考えました。現在はITチームの中で、各部門



他部署への各種データの提供・解析などの支援も行っている。

の業務アプリの運営支援をする業務システムチームに所属しています。情報のセキュリティ対策から管理まで、いわば事務局の仕事がスムーズに流れるようにする裏方の裏方です(笑)。数あるアプリの中でも最も重要なのが支援者情報管理システムです。システムでは、支援者さまからのお問い合わせ内容や寄付のお申し込み情報などを管理しています。いかなる状況においても支援者さまからの「思い」を受け取れない事態に陥らないよう、盤石なシステムを守るのが私たちITチームの使命。

そのために日頃からどんな小さなエラーも見逃さず、システムをモニタリングし、深夜や早朝のメンテナンスの手配を続けています。ここ数年、新型コロナウイルスやウクライナ緊急援助募金を募ったときもおかげ様で大変な反響がありました。過去の経験を踏まえ、あらかじめ対処すべきことを想定して動いたので、特に混乱なく各部門の業務を進めることができました。

衛生委員としての活動も

本業のITの仕事以外では、事務局

●MSFへの道のり

1988年	青年海外協力隊でマレーシアなどにITエンジニアとして派遣
1994年	外資系IT企業に勤務
2006年	大手製薬会社に勤務
2018年	MSF日本に入職



●支援者さまへ
目まぐるしく変わるセキュリティ対策にも細心の注意を払い、システムを徹底管理して参ります。

局の衛生委員会のメンバーとしても活動中です。コロナ禍では、オンライン・ラジオ体操やバーチャルウォークイベントを企画。バーチャルウォークイベントでは、事務局員が一定期間に歩いた距離を合算し、紛争地・南スーダンの首都からMSFの活動拠点までの距離を踏破することを目指しました。私自身、悪路を歩いて病院に向かう現地の人びとに心を寄せる貴重な経験となりました。MSFでいま、仕事ができるのは本当に光栄なこと。ここにいる間にできるだけ多くのことを吸収し、いずれMSFで定年退職を迎えた後も、これまでの経験を地域や社会に還元していく活動ができればと考えています。

皆さま、患者さん、そしてスタッフの思いが交わる MSFイベント制作の舞台裏をご紹介します!

日本の人びとにとってなじみの薄い人道危機を、少しでも想像していただけるよう、工夫を凝らして広報部が企画している、国境なき医師団(MSF)のイベント。指揮・統括担当の佐野と制作担当の高橋、佐野の前任で現在は海外派遣に携わる今城が集まり、イベントにかける思いと苦労(!?)を語りました。



エンドレスジャーニー展(本文参照)のご来場者に、解説ツアーを行う今城。

佐野 まずは一つお知らせが。コロナ禍で中止になっていた「エンドレスジャーニー展」をこの夏から再開することになりました! 私の入職前の2019年冬に今城さんや高橋さんが東京で開催し、2020年には他の地域でも開催する予定だったんですね。
今城 いやあ、再開と聞いて感無量です。「難民・避難民の人びと」をテーマに据えて企画を詰め、会場の調整など皆で奔走しました。
高橋 私は展示物の制作や告知を担当しました。写真一枚とっても、スマホで見ると、会場で大きなサイズのものを見るのとは違いますよね。人びとの息遣いまで感じていただけるような写真を一枚一枚選び、そこに添える文章を作成しました。
今城 大詰めの際は残業も多めでしたが(笑)、「寒い中来てくださるんだから、良いものを作らなきゃ」がチームの合言葉でした。

現地の空気を感じていただきたくて

今城 スタディーツアーのように実際に活動地を見ていただくことができればよいのですが、安全上かなわない。代わりにイベントで、謎解きゲーム★を企画したり、エンドレスジャーニー展では、現場で使う型の車両やテント病院を展示したりしました(写真下)。
佐野 「伝わる」展示にするためには、協力会社の力も大きいですよ。パネルの見せ方もそうですし、ギャラリーをお借りして活動

▶オンラインイベントの機材確認を行う佐野(右)。この日は事務局の休憩室(2ページ)から配信しました。



◀会場に展示する車両を搬入。このときはMSFの現場で使う車両と同じ型をお持ちの方がご厚意で貸してくださいました。



私たちが担当です

イベントで見かけたら
お声をかけください!



さの あい
佐野 愛

小学生の頃から人道援助に携わることを夢見て、大学卒業後は広告代理店に勤務しスキルを磨く。2021年、念願かなって今城の後任としてMSF日本の広報部に入職。



たかはし のりこ
高橋 哲子

民間企業、JICA海外協力隊、複数の国際援助団体勤務を経て、2019年にMSF日本に入職。大学生の頃に友人に連れられて訪れたMSFの写真展が、人道援助に携わるきっかけに。



いまじょう だいすけ
今城 大輔

1999年にMSF日本に入職。以降、海外派遣、民間企業、他の人道援助団体と幅広く従事。2017~21年にMSF日本でイベント運営を担当後、再び海外派遣へ。公私共にイベント好き。

★これまでにやってきたイベントは……

南スーダン救出作戦～答えは変えられる～(2019年)

人道危機の続く南スーダンで、あなたならどうやって医療援助を展開する? 制限時間内に謎解きを行うという条件のもと、MSFのスタッフを疑似体験していただきました。

マグナム・フォト連携写真展

——目撃者の証言 国境なき医師団設立50年(2021年)

設立50年を迎えたMSFと、MSFと同様に人道危機の現場を目撃し、捉えてきた世界的な写真家集団「マグナム・フォト」が連携し、全国3カ所で写真展を開催しました。

お近くの皆さま、ぜひご来場ください!

エンドレスジャーニー展(大阪)

■開催日時:2022年10月6日(木)~10月10日(月・祝)
10:00~20:00(最終日のみ~18:00)

■開催場所:カンテレ扇町スクエア/1階イベントスペース
大阪市北区扇町2-1-7

■入場料:無料

※イベント名や開催日は予告なく変更する場合があります。最新情報はウェブサイトからご確認ください。

スマートフォンから▶  www.msf.or.jp/tab/

メールマガジンに登録して イベント情報を受け取りませんか?

『ACT!』では、発行のタイミングにより、全てのイベントをご案内できない場合があります。ぜひメールマガジンにご登録いただき、最新の情報をお受け取りください!

スマートフォンから▼ 

私たち事務局員と一緒に、現地の人びとに力を送り返ませんか?



皆さま、ぜひご参加ください!

- ・SNSで最新情報をチェック&フォロー
 - ・イベントに参加する
 - ・ボランティアとして参加する
 - ・海外派遣スタッフとして働く
 - ・事務局員として働く*
- ※不定期で掲載しています。



スマートフォンから▶

詳しくは、公式ウェブサイトから! ▶ www.msf.or.jp

- Facebook @msf.japan
- Twitter @MSFJapan
- Instagram @msf_japan
- LINE @msf_japan
- YouTubeチャンネル 国境なき医師団日本

事務局スタッフに
聞きました!

国境なき医師団(MSF)で仕事を「頑張ろう」と思う瞬間や、理由は?

命を救う現場の最前線にいるスタッフと、それを応援して下さる皆さまのちょうど間にいる私たち。
実は事務局スタッフは、皆さまの一番身近にいる国境なき医師団です!

仕事が忙しくて目標を見失いかけたときに、YouTubeのMSF日本の映像を見て、自分も頑張らないと、思った

同僚たちが目標に向かって仕事し、議論し、いい表情をしているのを目にするとき

「支援者さまに「ありがとうございます、頑張ってください」とお声をかけていただいたとき
MSFでの私の役割は小さなものですが、人びとを助ける活動の一部を担っていると思うとき

世界中に同じ思いや志を持ったMSFの仲間がいると感じるとき

世界の患者さん、自分のために、私達の給料も寄付から。支那の患者さん、自分のために、私達の給料も寄付から。世界中の患者さん、自分のために、私達の給料も寄付から。

入った初日からMSFが大好き。多様な文化があり、固定観念に縛られない考え方が必要とされる環境。毎日が新鮮です

寄付のお願いは時には嫌がられることもありますが、「人の役に立ちたい」という気持ちと、困っている人がうまく繋がるきっかけの1つになっているのではないかと思いますので、毎日頑張れます

虐げられ、疎外され、つらい思いをしている人がいることを知ったとき

「MSFの活動は常に危険と隣り合わせで、誰にでもできることではありません。微力ながら寄付で支援しますね」と言っていたとき

働くことで弱い立場にある人びとに寄り添えると信じられるから

採用した新人スタッフが、人道援助のデビューを無事に果たし、帰国後の報告をしてくれるとき

皆さまのお気持ちも教えてください!

●あなたが「MSFを応援しよう」と思う瞬間や、理由は?

ぜひ下の項目に、郵送あるいはWEBからご回答ください。①の結果は、メールマガジンやSNS、ニュースレター「ACT!」などで後日発表させていただきます。

- ① あなたの「MSFを応援しよう」と思う瞬間や、理由
- ② 8月号へのご意見・ご感想

※同封のお手紙を書いた門馬秀介や、本誌の事務局員へのメッセージも受け付けています。

ご協力くださった方の中から抽選で10名様にMSFオリジナルのボールペン(下写真)を差し上げます。



WEB: <https://form.run/@act-2208>

郵送: 郵便はがきに、お名前、支援者番号、アンケートの回答をご記入の上、ページ下の住所までお送りください。

締め切りは2022年9月末日です。

スマートフォンから▼



「助きたい」その思いをつなぐ
こころの手紙

MSFには、世界中での活動を通して、数々の出会いがあります。皆さまや患者さん、スタッフの「あの人へ伝えたい」という思いを、お手紙でご紹介します。

“医師になって多くの人びとを助きたい”

僕の夢は医者としてMSFに参加して、紛争地や難民キャンプで治療をすることです。そのために医者になろうと思いましたが、勉強が辛い時もMSFのパンフレットを見ることで、「自分は絶対に絶対にMSFの一員になる!」って思って勉強頑張っています。いまはまだ医者として困っている現地の人びとを助けられないという葛藤もありますが、少しでも早くなれるように頑張ります。

学生 森上 皓太様 (静岡県)



武力衝突が多い地域にあるMSFの移動診療所に並ぶ人びと(エチオピア)

スマートフォンから▼



「こころの手紙」を特集したページで、温かい思いがたくさん詰まったお手紙をどうぞお読みください。

ニュースレター

ACT!

2022年8月号

発行元 特定非営利活動法人 国境なき医師団日本
〒162-0045 東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST早稲田FIRST 3階

寄付・ご登録情報 に関するお問い合わせ

TEL 0120-999-199

通話料無料

平日9:00~18:00/
土日祝日、年末年始休業

※ご住所等、ご登録の情報についての変更や、「毎月の寄付」の変更は左記までご連絡いただくか、マイページでお手続きください。



スマートフォンから▲

遺贈 に関するご相談・お問い合わせ

TEL 03-5286-6430

担当者直通

平日10:00~17:00/
担当: 荻野、今尾

2022年6月時点の情報です。最新情報はウェブサイトをご覧ください。

www.msf.or.jp